

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 1 日作成)

|                              |   |   |                               |
|------------------------------|---|---|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 雨水建築規格化小委員会   |   | 主 査 名：神谷 博<br>就任年月：2009 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学本委員会 (水環境運営委員会)   |   | 委員長名：久野 覚<br>主 査 名：小瀬 博之      |
| 設 置 期 間                      | 2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月   |   |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | ・ 雨水の利用、循環についての日本建築学会環境基準の作成  |   |                               |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：有<br>神谷 博 (㈱設計計画水系デザイン研究室)、村川三郎 (広島大学)、村瀬 誠 (東邦薬科大学)、屋井裕幸 (雨水貯留浸透技術協会)、佐藤 清 (テクノプラン)、中臣昌弘 (文京保健所)、ユルゲン・ヴィッチシュトック (慶応大学講師)、谷田 泰 (タニタハウジングウェア)、大沢幸子 (フリージャーナリスト)、早坂悦子 (NPO法人雨水市民の会)、山田岳之 (糺ノ森環境政策研究所) |   |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | 雨水建築普及 WG   |   |                               |
| 2010 年度予算                    | 60,000 円  | ホームページ公開の有無：有<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s21/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s21/</a> |                               |

| 項 目                                | 自己評価  |
|------------------------------------|---|
| 委員会開催数                             | 11 回 (年度内計画を含む)                                     |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)          | 1. 雨水活用システム規準 (3 月出版予定)                             |
| 講習会                                |   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)      | 第 33 回水環境シンポジウム「雨を制御し、活用する新たな建築をめざして」<br>参加者数 100 名 |
| 大会研究集会                             |   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等             | 雨水活用建築ガイドライン (案) パブリックコメント (実施予定)                   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係) | 当初計画の日本建築学会環境基準の作成ができる見通しがついた。                      |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                   | 規準作成の後に更に進めるべき作業が見えてきた。今後、今回の規準を踏まえた技術規準の作成を行う。     |

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度 雨水建築規格化小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

| 総合評価<br>(4 段階評価)                | (A)  | B | C | D |
|---------------------------------|--|---|---|---|
| 総合評価に関する<br>自由記述欄<br>(理由、特記事項等) | <p>小委員会の設置目標である日本建築学会環境基準の作成について 2 年間で 70 回以上の委員会と WG の活動を行なった。</p> <p>成果物として、日本建築学会環境基準「雨水活用建築ガイドライン」の出版を行うべく最終調整に入っている。</p> <p>関連して企画刊行小委員会にて「雨の建築道」の出版も同時に行う。</p> <p>また、普及 WG で進めていた作業の成果は「雨水製品便覧」としてこれも同時に別途 CD 出版する。</p> <p>大会の研究協議会での報告やシンポジウムも実施し、4 年にわたる規準作成作業を締めくくることができた。</p> <p>目標としていた作業はほぼ終わり、次に作成した基準を更に煮詰めて技術規準とする活動を続けることも決まり、今後の普及に努める体制が整った。</p> |   |   |   |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。